

(別紙仕様書)

平成28年度  
有用魚種の行動解析に基づく漁場整備の検討に係る  
現地調査業務

仕 様 書

平成28年4月

一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所

## 1. 業務名称

平成28年度 有用魚種の行動解析に基づく漁場整備の検討に係る現地調査業務

## 2. 業務目的

本業務は、ウスメバルの資源増大を図るために、ウスメバルの着底期以降（未成魚から成魚）を対象として、バイオテレメトリー調査等によって把握した魚礁及びその周辺での行動特性に基づいた漁場整備を検討するものである。

## 3. 契約期間

契約締結の日から平成29年3月6日

## 4. 業務内容

### (1) 調査箇所

図1に示す青森県風合瀬沖の水深30mと水深80mの2箇所

### (2) 調査時期

対象海域の漁業情報や水産有用種を勘案し決定する。

### (3) 調査回数

#### ① バイオテレメトリー調査

連続型追跡調査

6 ケース

設置型追跡調査

8 ケース

#### ② 流況調査

2 箇所

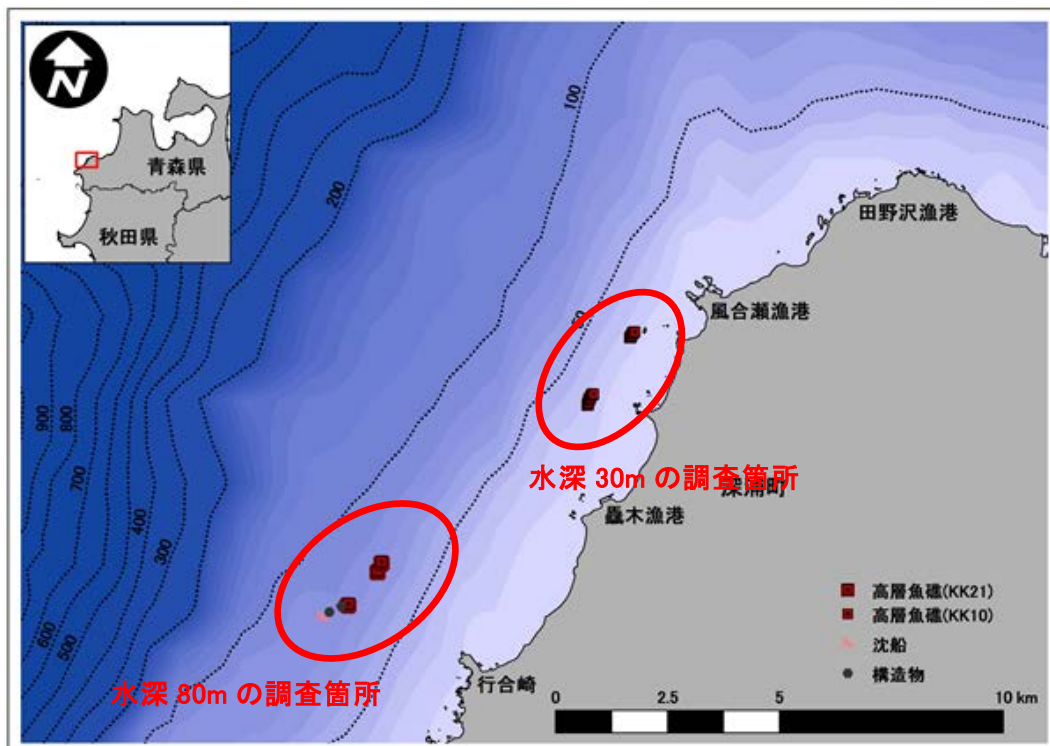


図1 調査地点図

#### (4) 調査の項目

下記の調査は、当研究所の用意する船舶、潜水士を使用し、当研究所の担当者の指示のもと行うものとする。

##### 1) バイオテレメトリー調査

###### ①連続型追跡調査

調査対象魚は4歳以上のウスメバルとし、当研究所が提供する供試魚を用いて、水深80mに設置された高さ20mの鋼製礁、水深30mに設置された高さ10mの鋼製礁について各々3日間程度連続追跡を3ケース実施することとする。

###### ②設置型追跡調査

設置型追跡調査については、連続型追跡調査結果を踏まえた上で、設置型受信機を設置することとする。

ここで、調査ケース数は、水深80mに設置された高さ20mの鋼製礁付近で5ケース、水深30mに設置された高さ10mの鋼製礁付近で3ケース実施することとし、調査期間は6ヶ月以上とする。

##### 2) 流況調査

調査期間中に、電磁流向流速計による流況調査を実施し、ウスメバルの行動と流況との関係を把握する。

観測地点は、バイオテレメトリー調査地点（水深80m、水深30m）の周辺海域とする。

#### (5) 調査結果の報告

受託者は、(4)の現地調査結果を調査報告書にとりまとめる。

#### 5. 企画提案書の提出

本調査の受託を希望するものは、様式2に基づいて企画提案書を作成し当研究所へ提出するものとする。

##### ① 調査方法の提案

本業務では、ウスメバルを対象にバイオテレメトリー調査等を実施するものである。調査対象海域の水産生物の生態について考慮し調査方法を提案すること。

##### ② 業務費限度額

本業務費は、消費税を含めて9,612,000円以内とする。

#### 6. 実施計画書の作成

受託者は、契約後詳細な調査方法と調査工程・安全・環境等の管理・関係諸機関との調整事項等を記載した実施計画書を作成し、当研究所担当者の承諾を得て調査に着手するものとする。

#### 7. その他

1) 本仕様書に記載のない事項について疑義が生じた場合は、当研究所担当者と協

議するものとする。

- 2) 受託者は、本業務の目的を十分理解し業務を遂行するものとする。
- 3) 本業務で知り得た情報および資料等は外部に漏らしてはならない。